

岡本眸の秋の句

新秋の身を入れて拭く卓の下  
むらさきの鶏頭見たり月の道  
髪冷えて外の月明を疑はず  
今日よりの鴝けふよりの袖の丈  
風小さく鳴つて花野ともう呼ばぬ

松岡隆子 抽